

平成 23 年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果

平成 25 年 3 月

東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）は、東京芸術文化評議会の提案に基づき、「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」をキーワードに、平成 20 年 4 月に「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げました。以来、東京に集積する人材・施設などの文化資源を最大限に活用しながら、以下の 4 つの目標を目指し、芸術団体やアート N P O 等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開してきました。

- 1 世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める。
- 2 次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す。
- 3 アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開。創造型 N P O 等と協働し、防災、子育てなど他分野とも連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す。
- 4 「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する。

この「東京文化発信プロジェクト」の継続的な改善を目指し、平成 23 年度に実施した事業を対象として、事業評価を実施し、東京芸術文化評議会に提出しましたので、公表します。

東京文化発信プロジェクト 事業評価概要

1 対象

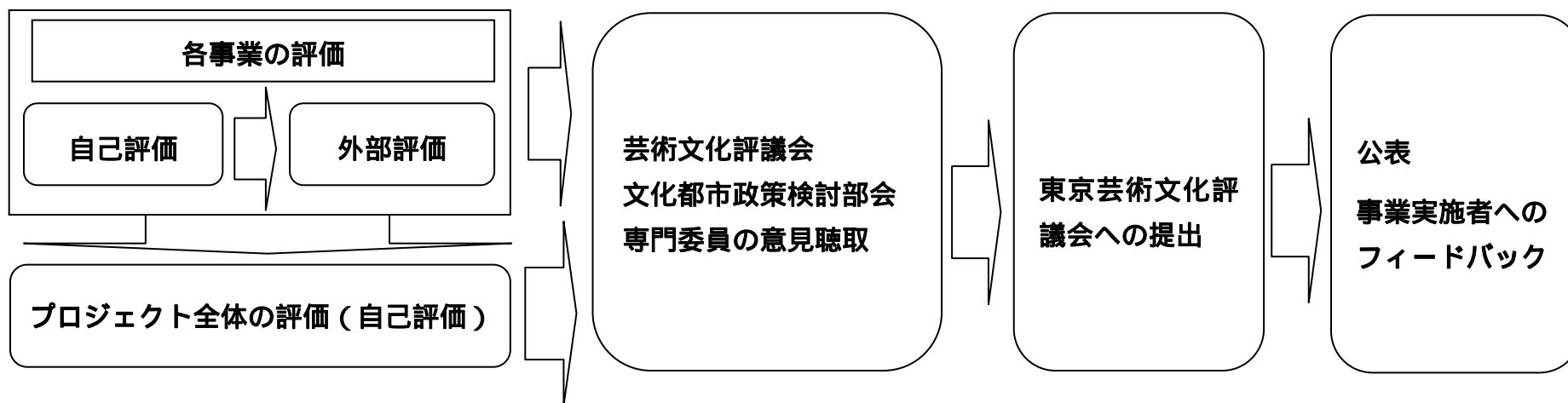
(1) 東京文化発信プロジェクトで実施した事業のうち以下のもの (計 20 事業)

世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業
<ul style="list-style-type: none"> 【伝統芸能】 ・東京発・伝統 WA 感動 伝統芸能公演 ・東京発・伝統 WA 感動 東京大茶会 2011 【演劇】 ・フェスティバル/トーキョー ・芸劇セレクション 【音楽】 ・Music Weeks in TOKYO 2011 【美術・映像】 ・六本木アートナイト ・現代アート発信・海外プロモート事業 ・東京アートミーティング ・恵比寿映像祭 ・東京 2050//12 の都市ヴィジョン展 【映画】 ・Talent Campus Tokyo 2011 ・日本映画海外発信事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京発・伝統 WA 感動 キッズ伝統芸能体験 ・パフォーマンスキッズ・トーキョー ・ミュージック&リズムス TOKYO KIDS ・TACT フェスティバル TOKYO ・青少年のための舞台芸術体験プログラム <p>アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開。創造型 N P O 等と協働し、防災、子育てなど他分野とも連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京アートポイント計画 <p>「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FUTURE SKETCH 東京会議 ・国際招聘プログラム

(2) 東京文化発信プロジェクト全体

2 評価の手法

(1) フロー図



(2) 各事業の評価

評価者

外部評価者は下表のとおりである（五十音順）。

氏名	肩書き（評価当時）
浅葉 和子	アートプロデューサー
稲葉 郁子	朝日新聞社文化事業部
岩崎 和夫	音楽ライター
岩淵 潤子	慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構（DMC）教授
内野 儀	東京大学大学院総合文化研究科教授
大月 ヒロ子	有限会社アイデア代表取締役
大西 泰輔	Sony Music Foundation 顧問
苅宿 俊文	青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター教授
黒河内 茂	日本伝統音楽振興会代表
後藤 繁雄	京都造形芸術大学芸術学部教授
篠原 弘子	株式会社プレノンアッシュ代表取締役社長
柴田 克彦	音楽ライター
鈴木 芳雄	BRUTUS エディトリアルコーディネーター
芹沢 高志	P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター、AAF 事務局長
曾田 修司	跡見学園女子大学教授
荻原 康子	公益社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター

前田 仁	麒麟ビバレッジ株式会社代表取締役社長
丸茂 美恵子	日本大学芸術学部演劇学科教授
村井 良子	PLANNING LAB.LTD 代表取締役
山崎 篤典	鳥取県立いわみ芸術劇場名誉館長
渡辺 弘	さいたま芸術劇場制作部長

評価の視点

目標	視点
1 世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	1 事業の内容 2 芸術文化活動を支える人材の育成 3 広報（事前・事後） 4 協力・支援の確保 5 その他 6 総括
2 次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	1 事業の内容 2 芸術文化活動を担う人材の育成 3 から 6 まで 目標 1 と同じ
3 アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開。創造型 N P O 等と協働し、防災、子育てなど他分野とも連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	1 事業の内容 2 パートナーとなる団体の育成 3 から 6 まで 目標 1 と同じ
4 「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	1 から 6 まで 目標 1 と同じ

東京文化発信プロジェクト 全体評価

【評価の視点】

目標	視点
世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(質が高く独自性のある国際芸術フェスティバルや文化イベントの開催) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(本物の芸術文化・アーティストに触れる機会の提供) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開。創造型NPO等と協働し、防災、子育てなど他分野とも連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンル ・手段(国内外へのアピール度が高く、関係者が東京に集うプログラム等の展開) ・発信(広報、プロモーション) ・社会的インパクト
総括	事業全体の成果と課題、課題に対応するために今後行う取組

【評価】

成 果	<p>伝統文化、演劇、音楽、美術、映像、映画など、多様な分野で事業を展開し、芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供・青少年たちの育成、東京における多様な地域の文化拠点の形成、世界的な文化創造都市・東京のアピールと国際ネットワーク強化という4つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。</p> <p>フェスティバル分野では、フェスティバル/トーキョー、六本木アートナイト、恵比寿映像祭などが、独自性の高い国際的なアート・フェスティバルとして定着しつつあり、創造発信のプラットフォームの形成にもつながってきている。</p> <p>キッズ・ユース分野では、キッズ伝統芸能体験、パフォーマンスキッズ・トーキョーが、子供・青少年たちが本物を体験できるプログラムとして常に高い評価を得ている。</p> <p>アートポイント計画は、それぞれのまちの特性を活かし、エリアを拡大しながら地域に根ざした事業展開を行い、それに伴い、現場での人材育成も図られ、人材育成講座も機能し始めた。</p> <p>ネットワーキング事業は、東京に集積している文化資源を十分に活かし、世界に東京の文化を発信する持続的な国際ネットワークを構築する足掛かりを形成した。</p>
課 題	<p>プログラムの中には、充実し、認知度の高まっているものもあるが、東京文化発信プロジェクト全体としては、海外に十分に認知されるだけの発信力は、まだ不足している。</p> <p>フェスティバル分野では、回数を重ねたことにより、都民の間に定着しているものもあるが、伝統芸能公演、音楽事業などは、まだ存在感を高めていく段階にとどまっており、既存の枠に捉われない新しい取組を検討する必要がある。</p> <p>キッズ・ユース分野は、内容は充実しているが、事業の成果を幅広く周知する手法を検討し、より多くの子供・青少年たちに体験型事業を提供する必要がある。</p> <p>アートポイント計画は、プログラムの実施だけでなく、継続的な事業運営を行うための仕組み作りや、効果的な広報展開もできるよう、スタッフの人材育成を行うとともに、各共催団体の自立も視野に入れた事業展開を図る必要がある。</p> <p>ネットワーキング事業は、東京の芸術文化活動をアピールするため、より一層、国際ネットワークを持続・発展する仕組みを検討する必要がある。</p>

今後の取組	<p>4年間の実績をふまえて、個々のプログラムについて見直しを行い、スクラップ&ビルドにより全体の再構築を図るなど、更に効果的な事業展開ができるよう取組む。</p> <p>プロジェクト全体の発信力をより高めるため、東京クリエイティブ・ウィークの期間の延長、テーマ設定のあり方、プレスキャラバンなど、更に効果的な戦略を検討する。</p> <p>文化事業に関心の高い層にプロジェクトの情報が行き届くよう、自治体や大学、他の文化イベントなどとの広報協力をより一層充実させるとともに、独自の発信力が高い学生等の若い世代を活用した広報についても検討していく。</p> <p>フェスティバル分野では、伝統芸能、音楽事業において、ジャンルを越えた新たなプログラムの展開を行うとともに、都立文化施設との連携を強化していく。</p> <p>キッズ・ユース分野では、既存の分野にとどまらず、これまでの実践のノウハウを活かしながら、学校・地域との連携を強化し、体験の機会を増やす方策や事業の成果を幅広く発信する方法を検討していく。</p> <p>アートポイント計画では、プログラム間の連携や現場と人材育成プログラムの連動など全体の事業フレームを見直すとともに、各共催団体の自立運営に向けた仕組みを検討する。</p> <p>ネットワーキング事業では、プロジェクト全体の海外への発信力を強化するため、参加者のネットワークの構築を強化するとともに、会議の運営方法や合理的な期間設定を検討していく。</p>
-------	--

事業名	東京発・伝統 WA 感動 伝統芸能公演	事業開始	平成 21 年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	長い歴史の中で生まれ、江戸・東京で受け継がれ発展させてきた伝統的な邦楽、舞踊、演劇、話芸などを若い層を中心に広く普及させるとともに、新しい創造を促し日本独自の文化として世界に発信していく。		
内容	<p>多様なジャンルの伝統芸能を広く取り上げ、初心者に分かりやすいワークショップから、一流の芸を紹介する公演まで、幅広く展開するフェスティバルとして実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 邦楽「邦楽ワンダーBOX！」 / 5月5日(木・祝) / 芸能花伝舎 太鼓「夏・東京の太鼓」 / 8月2日(火) / 東京文化会館 邦楽「邦楽ウィークエンド」 / 8月20日(土)、21日(日) / 江戸東京博物館 邦楽・舞踊[芸の真髓シリーズ]『京のみやび』京舞と一音の調べ / 8月23日(火) / 国立劇場 声明・雅楽「十牛図と秋庭歌一具 一新たなる伝統の創造」 / 9月10日(土) / 国立劇場 太鼓「日本の太鼓 一受けつぎ、伝えるひびき」 / 9月23日(金・祝) / 国立劇場 落語・花街の芸能「大江戸寄席と花街のおどり」 / 12月3日(土) / イイノホール 民俗芸能「第12回多摩川流域郷土芸能フェスティバル」 / 12月4日(日) / 狛江エコルマホール</p> <p>【来場者数】 9,385人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●初心者から専門家まで楽しめる、伝統芸能の魅力を伝える公演を開催した。 ●各公演とも、これまでより一段と質の高い洗練された内容を提供した。 ●解説を交えた公演や、若手のアーティストの起用など、プログラム構成の工夫を図った。 	<p>広く海外にも「伝統文化創造都市」としての東京の魅力を発信していく必要がある。</p> <p>若い世代に発信していくために、伝統芸能の新たな可能性を提示するとともに、もっと気軽に見てもらえるような工夫をする。</p> <p>■伝統芸能に関心を持つ若手の人材育成のための努力が必要である。</p>	<p>広く海外や若い世代にも伝統文化の魅力を発信するために、アプローチする対象の具体化や、新たな切り口で伝統を紹介する事業の展開のほか、若手人材の育成にも力を入れていく。</p>

事業名	東京発・伝統 WA 感動 東京大茶会 2011	事業開始	平成20年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	日本の茶文化についての理解と親しみを深め、今後の茶文化の継承発展と普及に努めるとともに、日本の代表的な伝統文化として、観光を含めた海外発信を図る。		
内容	<p>伝統ある茶文化や、お茶の文化を育んできた江戸・東京の文化を知ってもらうため、江戸東京たてもの園及び浜離宮恩賜庭園の2箇所で大規模な茶会を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 10月1日(土)、2日(日) / 江戸東京たてもの園 10月22日(土)、23日(日) / 浜離宮恩賜庭園</p> <p>【来場者数】 13,500人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●子供や外国の方々にも、日本の伝統や和の心に触れる機会となる内容であった。 ●文化の集積地である東京ならではの会場を設定し、多彩な流派の茶席を取り揃え、質の高いプログラムを提供することができた。 ●茶席の他にも江戸小路の企画や伝統文化のステージ公演など、多彩なプログラムを展開し、来場者が茶道と親しめる構成を行った。 	<p>茶文化に触れる機会の少ない層が参加しやすい環境作りや広報の工夫が必要である。</p> <p>■広く海外に向けた発信力の更なる強化が必要である。</p>	<p>茶文化に触れる機会の少ない層の参加を一層増やすため、海外への発信力の強化とともに、より幅広い層が楽しめる茶席の設置などを検討していく。</p>

事業名	フェスティバル/トーキョー	事業開始	平成20年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	国際文化創造都市を目指す東京から、世界に向けた舞台芸術の創造と発信を行い、アジアを代表する世界水準の国際舞台フェスティバルとすることを目標とする。		
内容	<p>世界最先鋭の作品、日本を代表する演出家の作品、国際共同制作による新作など、国内外からの尖鋭的なラインナップと参加型の各種プログラムや若手劇団の育成等を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 9月16日(金)～11月13日(日) あうるすぽっと、にしすがも創造舎、自由学園明日館、シアターグリーン、西武池袋本店、夢の島公園、豊洲公園、芝公園、アキバナビスペース、彩の国さいたま芸術劇場、ホテルグランドシティ、ほか都内各所</p> <p>【来場者数等】 観客：34,024人 参加者数：613人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●公募プログラムでは、アジアまで対象を拡大し、アジアの多くの国から参加を得ることができた。 ●ヨーロッパの代表的演劇祭や香港・シンガポールの国際舞台芸術祭と遜色のない内容で実施できた。 ●資金による外部支援が難しい中、西武百貨店池袋店の協力を得た演目の実施など、レベルを維持した公演を実施できた。 	<p>アーティストと観客をつなぐための広報やプログラム構成を検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■資金調達、プログラミング、作品創造などの目標や当初理念(新しい価値の創造・世界への発信)を維持しながら発展することが必要である。 ■アジアへの関係意識をさらに充実し、観客の裾野を広げていく。 ■演劇業界に対しての影響力を増している中で、どのように広報活動を展開すべきか、今後の課題である。 	<p>資金確保などに努め、演劇祭として世界での地位を確立できるよう、広報活動やプログラム構成の検討に取り組んでいく。</p>

事業名	芸劇セレクション	事業開始	平成21年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	国際的かつ質の高い演劇・ダンスの創造、先端的な芸術表現を行う若手アーティストの育成に積極的に取り組むことで、東京の演劇文化の顔・拠点を創るとともに、様々な取組を行うことで新しい観客層を拡げ、東京の演劇文化の基盤を充実する。		
内容	<p>「『THE BEE』 English Version ワールドツアー」で「THE BEE」をニューヨーク、ロンドン、香港、東京で上演するワールドツアーを実施したほか、平成21年から実施している気鋭の若手劇団を紹介するシリーズとして「芸劇 eyes 番外編『20年安泰。』」の上演や、世代の異なる劇作家2名が自作の戯曲、小説、エッセイ等をリーディングして語り合う新企画「芸劇＋トーク 異世代劇作家リーディング『自作自演』」を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 「『THE BEE』 English Version ワールドツアー」 / 1月5日(木)～15日(日) / ニューヨーク 1月24日(火)～2月11日(土) / ロンドン 2月17日(金)～2月19日(日) / 香港 2月24日(金)～3月11日(日) / 水天宮ピット</p> <p>「芸劇 eyes 番外編『20年安泰。』」 / 6月24日(金)～6月27日(月) / 水天宮ピット 「芸劇＋トーク 異世代劇作家リーディング『自作自演』」 / 9月～3月(全4回) / 水天宮ピット</p> <p>【来場者数】 12,041人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●世界に発信する作品や、若手劇団の発掘、異世代の劇作家による新しい試み等、クオリティ、話題性、集客性などにおいて成果を上げた。 ●海外の観客、プレゼンター、劇場、評論家などにも作品を認められ、今後、日本の戯曲や作家が東京から海外へ発信する道を開いた。 ●国際的なコラボレーションの経験や、世界的なネットワークとのつながりを形成できた。 	<p>若手劇団発掘をテーマとした企画をどのような頻度で実施するか検討の必要がある。</p> <p>■公共劇場における創造活動は、一種の社会実験であり、未来への投資であるという視点を強調する必要がある。</p>	<p>劇場や事業における公共性の意味を明確にし、芸劇ならではのコンセプトを維持しつつ、中長期的な視野で企画の充実を検討していく。</p>

事業名	Music Weeks in TOKYO 2011	事業開始	平成22年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	世界的にも高レベルの合唱都市東京をアピールすべく「声」をテーマに種々の企画を行い、東京の音楽シーンを活性化し、質の高い音楽を創造することで、東京の芸術文化を世界に発信する。		
内容	<p>合唱界の巨匠ロベルト・ガッビアーニ氏と一流のプロ合唱団「スーパー・コーラス・トーキョー」による特別公演や、東京都交響楽団による「プレミアムコンサート」、次世代を担う音楽人材の育成のための「東京音楽アカデミー」など東京ならではの多彩な音楽フェスティバルを実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 スーパー・コーラス・トーキョー特別公演 / 10月6日(木)、9日(日) / 東京オペラシティ、新国立劇場 まちなかコンサート / 9月23日(金・祝)、10月1日(土)、2日(日)、9日(日) / ヤマハホール、江戸東京たてももの園、東京文化会館 プレミアムコンサート / 5月20日(金)～22日(日)、7月21日(木)～23日(土)、8月28日(日)～30日(火)、11月3日(木・祝)、5日(土)、12日(土)、19日(土)、2月24日(金)、3月4日(日) / 神津小学校、式根島中学校、新島小学校、サンパール荒川、江戸川区総合文化センター、昭島市民会館、ひの煉瓦ホール、文京シビックホール、かつしかシンフォニーヒルズ、日の出町立平井中学校、檜原村やすらぎの里、奥多摩文化会館、瑞穂町スカイホール、めぐろパーシモンホール、羽村市生涯学習センター 東京音楽アカデミー / 10月～3月 / 上野学園大学、アカデミー文京、東京文化会館ほか</p> <p>【来場者数】 13,482人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●音楽文化都市東京を世界に認知させ、国内外からの来訪者を拡大するフェスティバルとするために、充実した内容の事業を実施した。 ●ねらいとする「声」をテーマとした事業展開は意義があった。 ●専門家からも高い評価を得ることができた。 	<p>世界最大規模の音楽活動が行われている東京でのフェスティバルとして、首都圏以外や世界に向けても広報し、本事業を認識してもらえるよう事業を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■育成してきた合唱団の運営継続のための仕組み作りや、アカデミーで発掘した演奏家のプロモーションを行っていく。 ■曲目の選定の見直しや、近年の環境の変化に合った広報の手法を考える必要がある。 	<p>実行体制を強化するとともに、新しい切り口でのクラシック音楽の公演や、若手演奏家向けのマスタークラスを実施し、東京ならではの音楽事業を展開していく。</p>

事業名	六本木アートナイト	事業開始	平成20年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	美術 映像
事業のねらい	地域の各所に、国内外のアーティストの作品(演技)を複数点在(回遊)させ、都市を行き交う人々が自然にアート作品に親しみ、理解を深める環境を創出する。美術館施設内に入らずして、アートに触れる機会を提供するとともに、東京の内外、日本国内外から六本木を訪れる人々の「主要なデスティネーション(目的地)」になり得るような文化的な質と価値を創造する。		
内容	<p>「アートでつくろう、日本の元気」をテーマに、アート作品のみならず、デザイン、音楽、映像、パフォーマンス等の多様な作品を街の中に点在させ、アートと街が一体化する一夜限りのアートイベントを実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 3月24日(土)～25日(日) 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース</p> <p>【来場者数】 約700,000人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 震災による中止を経て、2年ぶりの開催であったが、復興支援関連のプログラムの導入により震災後約1年のタイミングで開催する社会的意義を示し、前回と同水準の鑑賞者数を集めることができた。 ● 文化庁からの補助金や、「TOKYO SPRING」、「東京アートウィーク」など他の事業との連携による幅広い広報支援が得られた。 ● 民間企業からの協賛獲得や、多数の企業・団体から物的、人的支援を受けることができた。 	<p>イベント規模やプログラム数と質のコントロールなどのレベルを向上させるためには、円滑な企画・運営ができる組織体制の改変が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 協賛獲得活動をさらに推進する。 ■ 海外での認知を強化するため、国内在住外国人を通じたアプローチをさらに増やし、海外へ波及させていく。 	<p>企画運営の組織体制を強化し、イベント規模やプログラムの数と質などをさらに充実させ、事業全体のレベルを向上させていく。</p>

事業名	現代アート発信・海外プロモート事業	事業開始	平成21年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	美術 映像
事業のねらい	東京都の現代美術コレクションを海外に紹介することを通じて、日本の現代美術作品や作家をアジアに発信する。		
内容	日本の若手作家を中心とした東京都現代美術館の収蔵作品を海外の美術館で紹介する巡回展を実施した。 【開催日及び会場】 7月2日(土)～9月25日(日) / 台北市立美術館 【来場者数】 85,859人		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●東京都現代美術館のコレクションによって、1970年代の草間彌生作品を起点にしつつ、国内の若手作家を中心にした構成とし、現在の日本美術の状況を概観できる内容であった。 ●出品作家によるアーティストトークなどを行い、台湾国内での日本の現代美術に対する興味・関心を高めることができた。 ●震災の援助に対する若手作家の感謝の意をビデオの制作上映により伝え、台北側にも好意に受け入れられ、海外との交流を図るといふ本事業の目的を十分に果たすことができた。 	<p>都のコレクションが国際的にも評価が高いことを示すには、日本現代美術を海外に引き続きアピールしていく必要がある。</p> <p>■アジア諸国における日本現代美術に対する関心は高まりつつあるため、今後もそれに応えていく方法を別途考えていく。</p>	<p>事業内容を見直し、東京アートミーティングの関連事業に集約していく。</p>

事業名	東京アートミーティング	事業開始	平成22年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	美術 映像
事業のねらい	現代アートを中心に、デザイン、建築などの異なる表現ジャンル、およびその他の専門領域が会うことで、新しいアートの可能性を提示する。		
内容	<p>様々なジャンルの表現や専門領域がアートを媒介として出会う企画として、「建築、アートがつくりだす新しい環境—これからの“感じ”」展を開催し、共同企画者として世界的に著名な建築家SANAAを迎え、人間や自然社会の内外における多様な経験・思考から導かれる建築の普遍的な創造力を展示空間全体で紹介した。</p> <p>【開催日及び会場】 10月29日(土)～1月15日(日) / 東京都現代美術館・東京藝術大学</p> <p>【来場者数】 東京都現代美術館会場:29,776人 東京藝術大学会場 :770人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>建築・アートという垣根を越え、それぞれの愛好家に対して、より身近な問題としての建築への関心を喚起し、「建築」を切り口に現代建築および現代美術の今を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会をはじめ、関連イベントも連携して実施するなど、意義深い事業であった。 ● 国内外の助成団体・企業からの資金援助のほか、大使館や東京藝術大学、その他様々な大学や機関からの協力、人的支援を得ることができた。 ● 多様な関係者が独自に発信する広報やパブリシティの効果もあり、効果的でタイムリーな広報活動を展開できた。 	<p>新しい分野とのコラボレーションであり、その専門性に基づいた関わり方や事業の進め方が求められたため、前年度の課題を十分に活かすことができなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 展示構成や広報、イベントなど全体的にもう少し時間をかける必要があった。 ■ 展示風景を含めた特設ページの作成や会場のYoutubeでの動画配信などの新たな取り組みを時間に余裕を持って進める必要があった。 	<p>引き続き、他分野と連携した新しい現代アートを大学等と協力しながら発信していく。</p>

事業名	恵比寿映像祭	事業開始	平成20年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	美術 映像
事業のねらい	映像文化の創造、発信および継承活動の活性化を促進し、文化発信拠点としての東京都及び東京都写真美術館の存在感をアピールする。		
内容	<p>東京都写真美術館の全館を使って、展示、上映、ライブ、トーク・セッションなど多彩なプログラムによる映像のフェスティバルを開催した。「映像のフィジカル」を総合テーマに、世界各国の作家及びゲストの参加を受け、多様化する映像表現とその受け止め方を問い直す国際フェスティバルとして実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 2月10日(金)～26日(日) / 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイスほか</p> <p>【来場者数】 89,150人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>過去3回の実績とノウハウを土台にして、より挑戦・持続できるための運営力が強化された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●美術館を会場とした映像祭ならではの企画であり、写真・映像祭の個性がある企画であった。 ●一般観客から、専門性をもって映像文化や芸術に深く関わる人まで幅広い観客層にアピールでき、各方面に認知されるとともに、東京都写真美術館の利用者層も広げることができた。 	<p>話題性と質を維持した映像祭として、海外でも存在感と評価を高め、国際文化交流の場としてより発展させ、継続的かつ安定的に事業を実施する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■会期延長に伴い、スケジュールと事業規模管理の両面から、より精緻な計画実行が必要である。 ■次世代の映像文化を担う若手アーティストの発掘、育成、活躍の場としてもさらに機能させる。 	<p>海外でも存在感と評価を高めるため、継続的かつ安定的に事業を実施するとともに、次世代の若手アーティストの発掘や育成、活躍の場としても機能させていく。</p>

事業名	Talent Campus Tokyo 2011	事業開始	平成22年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	映画
事業のねらい	映画分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能」を育成することを目的とする。		
内容	映画作家を目指すアジアの若者を東京に集め、ベルリン国際映画祭と連携し、国際的なネットワークを築き、講義やワークショップなどにより人材育成を実施した。 【開催日及び会場】 11月21日(月)～26日(土) / 東京都内、有楽町朝日ホールほか 【参加者数】 15人		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>アジアから非常にレベルの高い応募者が集まったため、少数精鋭の参加者に他ではできないプログラムを実施することができ、参加者の高い満足を得られた。</p> <p>●世界の第一線で活躍する監督やプロデューサー、東京フィルメックスのゲスト等との交流により刺激を受けるとともに、国際的なネットワークを築ききっかけを得ることができ、将来的に国際映画祭に出品される才能が育つことが期待できる事業となった。</p> <p>●ベルリン国際映画祭との連携により、広報等の協力や新たな申込みシステムを導入し、前年度の2倍以上の応募があった。また、ベルリントalentキャンパスのノウハウを活用することで、プログラム内容のレベルアップに繋がった。</p>	<p>日本では事業の認知度が低く、言語の問題もあり、アジアのほかの国に比して応募が少ない。</p> <p>■通訳の対応により、質の高いサービスを参加者に提供できたが、サービス維持のためには、企業等からの支援を得るなど、コスト面の工夫が必要である。</p> <p>■参加者が「トウキョウ」をテーマに作品を制作し、映画祭等で作品発表できる仕組みを検討する。</p>	<p>国内での事業の認知度と日本人参加者のレベル向上を図り、参加者が映画祭等で作品発表のできる仕組みを検討する。</p>

事業名	日本映画海外発信事業	事業開始	平成22年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	映画
事業のねらい	日本映画の名作に英語字幕を付し、海外の映画祭等で上映することで、海外における日本文化の一層の普及・浸透を図る。		
内容	<p>川島雄三監督の作品の英語字幕付きニュープリントを作成し、国際映画祭や海外シネマテークなど海外での上映や、第12回東京フィルメックスでの上映を実施した。また、木下恵介監督の作品のニュープリントを作成して上映を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 洲崎パラダイス 赤信号 / 9~10月 / ニューヨーク映画祭(アメリカ合衆国) 12月 / シネマテーク・フランセーズ(フランス) 2月 / 国立映画博物館(イタリア)</p> <p>洲崎パラダイス 赤信号・昨日と明日の間 / 2月 / ベルリン国際映画祭(ドイツ)、アルセナール(ドイツ) とんかつ大将・昨日と明日の間・愛のお荷物・洲崎パラダイス 赤信号 / 3月 / 香港国際映画祭(中国)</p> <p>【参加者数】 フィルメックス:665人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>上映機会の少ない作品や傑作など映画会社をまたがった多様な4作品を集め、川島雄三の体系的な紹介ができた。</p> <p>●ベルリン国際映画祭などでの上映により、海外のプログラマーに作品を紹介できた。</p> <p>国際的な視野を持つ映画人の育成にも貢献できた。</p>	<p>若者や海外プレスへの更なる広報が必要である。</p> <p>■海外映画祭への出品を促進する。</p> <p>■松竹、日活以外の他社とも連携し、バラエティのある傑作作品を集めた魅力的なプログラム構成が必要である。</p>	<p>若い世代や海外に更なる広報を行うとともに、作品を見る意義や魅力をアピールできるプログラム構成を行う。</p>

事業名	東京 2050//12 の都市ヴィジョン展	事業開始	平成 23 年度
政策目標	世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	美術 映像
事業のねらい	都市デザインや文化的な視点を中心に、多分野を複合し、新たな発見が期待される取組を、世界建築会議に合わせて展開することで、「文化創造都市・東京」を国内外へアピールする。		
内容	第24回世界建築会議(UIA2011東京大会)のメインテーマ「DESIGN 2050」に呼応して、建築家や都市デザインを専攻とする首都圏12の大学の研究室チーム(プロポーザル・チーム)が新たなメトロポリス像として、あるいは、成熟社会のアジアの大都市モデルとして、2050年における首都圏の未来像を提示した。 【開催日及び会場】 展示 / 9月24日(土)~10月2日(日) / 丸ビルホール シンポジウム / 9月30日(金) / エコツツェリア内サロンゾーン(千代田区丸の内) 【参加者数】 2,683人		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>今までにない独自性の高い内容の展覧会を実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建築界を代表する建築家たちが提案する未来の東京に興味・関心を持つ多くの鑑賞者が来場し、トークやシンポジウムなどもきめ細やかに実施できた。 ● 震災を経た時期における現実的な問題に対する提案を提示できた。 ● ウェブサイトやツイッターなどの媒体による広報が短期間で成果を上げた。 	<p>新聞や雑誌等の紙媒体への広報活動を時間に余裕を持って実施する必要があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 余裕のある資金運営のためには、外部からの資金協力や支援の獲得が必要である。 ■ 他の建築展との積極的な連携や、テーマ・観客層などの拡大にも取り組む必要がある。 	平成23年度で事業終了

事業名	東京発・伝統WA感動 キッズ伝統芸能体験	事業開始	平成20年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	子供たちが伝統芸能文化を直接、深く体験することで、伝統芸能の世界に触れ、感性を涵養する機会を提供する。子供たち、ひいては家庭内の伝統芸能に関する興味関心や感性を高め、今後の伝統芸能の継承と発展を支える観客層等の充実を図る。		
内容	<p>能楽・日本舞踊・箏曲・長唄の一流の芸術家が7か月にわたり小・中学生・高校生を対象に直接指導し、その成果をひのき舞台上で発表するとともに、講師を中心としたプロの公演の鑑賞会を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 お試し体験 / 7月16日(土)、17日(日) / 芸能花伝舎 お稽古 / 9月～3月 / 芸能花伝舎、宝生能楽堂、東村山市立中央公民館、江東区文化センター、杵家会館、新宿文化センター、町田市民ホール</p> <p>発表会 / 3月20日(火・祝)、28日(水)、29日(木) / 宝生能楽堂、浅草公会堂</p> <p>【参加者数】 お試し体験:563人 お稽古:317人 発表会来場者:2,231人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>新たに地域や学校を切り口にしたプログラムを実施するとともに、複数のジャンル体験、舞台稽古の公開、講師による実演の鑑賞など多彩なプログラムを展開し、講師陣も充実させ、質、成果ともに上げることができた。</p> <p>●年齢や性別も様々な人に、地域や学校などで伝統芸能に興味関心を抱く機会を提供でき、一般都民の中でも事業の存在感を増すことができた。</p> <p>毎年多面的な広がりを見せており、伝統芸能を担う実演家にも大きな影響を与えた。</p>	<p>事業内容の多角化に伴い、事業全体の関連付けや効率化を図る必要がある。</p> <p>■参加者とその家族だけでなく、幅広い世代の人々や一般都民に、伝統芸能の魅力を伝えるとともに、次世代への芸術活動の担い手を育成していく。</p> <p>■実演家団体やその会員にも、より一層事業の理解を図る必要がある。</p>	<p>幅広い世代の人々にも伝統芸能の魅力を伝えるとともに、引き続き、学校との連携を行い、子供たちが伝統芸能を体験する機会を増やしていく。</p>

事業名	パフォーマンスキッズ・トーキョー	事業開始	平成20年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	ダンスや演劇を通じた、子供たちの自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上及び感受性の育成を図る。		
内容	<p>ダンスや演劇のプロのアーティストを学校やホールに派遣し、ワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナル舞台作品の創作、発表公演を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 学校 / 7月～3月 / 都内小学校(10校) 島しょ部 / 7月～2月 / 御蔵島小・中学校、三根小学校 ホール / 7月～3月 / 都内施設(5箇所) 児童擁護施設等 / 4月～3月 / 二葉むさしが丘学園、目黒若葉寮、ベトレヘム学園</p> <p>【参加者数等】 参加者:670人 観客:5,706人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>参加した子供たちだけでなく、学校の先生や保護者、会場提供者からも事業内容や質に対して、高い満足度を得ることができた。</p> <p>●子供たち自身に、ワークショップの効果や、自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上などの成果を顕著に見ることができた。</p> <p>学校側の理解やアーティストの技量も向上し、子供たちの学習環境を充実させることができている。</p>	<p>より幅広い広報活動を行うことが必要である。</p> <p>■アーティスト、コーディネーター、ボランティアスタッフなどの人材育成や発掘をさらに行う。</p> <p>■関係者間で、事業の教育的な意義や社会的な重要性、社会的ネットワークの再編に大きく寄与していることなどを理解する必要がある。</p> <p>■事業実施を経て取り組んだことの意味や課題を振り返る活動が人材育成として必要である。</p>	<p>より幅広い広報活動や、アーティスト、コーディネーター、ボランティアなどの人材育成・発掘をさらに行う。</p>

事業名	ミュージック&リズム TOKYO KIDS	事業開始	平成20年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	音楽
事業のねらい	ワークショップ体験を通じて、自然のすばらしさ、音楽・ダンス・唄など表現をする楽しさや難しさ、様々な音楽家・楽器・音との出会いを体験し、音楽家たちとのコンサートを通じて、参加者全員によって生まれる日本の音・地球の音を東京より発信することを目指す。		
内容	<p>東京の自然のなかで、竹を使って自分たちの手で楽器を作り、音楽を生み出していくワークショップを積み重ね、その成果をプロの音楽家とともに発表した。</p> <p>【開催日及び会場】 ワークショップ(野外体験、楽器作り) / 9月3日(土)、4日(日)、10日(土) / 高尾の森わくわくビレッジ 9月17日(土)~19日(月・祝) / 台場区民センター</p> <p>ワークショップ(合奏練習) / 10月2日(日) / 高尾の森わくわくビレッジ 10月9日(日) / 台場区民センター 10月16日(日) / 都民広場</p> <p>リハーサル、コンサート / 10月22日(土)、23日(日) / 都民広場</p> <p>ワークショップコンサート / 5月6日(金) / 世田谷区立東深沢小学校</p> <p>【参加者数】 358人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>広報活動の改善により、前年度より100名程度多くの参加があった。</p> <p>●初めて試みた学校ワークショップでも、実施校はもとより、周辺校の先生からも理解を得て、事業実施の要望を多く得た。</p> <p>実体験を通じた自然の音や人とのかかわりなど、子供たちにとって貴重な体験ができた。</p> <p>次世代を担う子供たちに、プロの音楽家と共に、自分の身体で音作りをするなど、学校では学べないことを体験させることができた。</p>	<p>本活動の参加者や協力・応援者達のネットワークを作り、活動をレベルアップする必要がある。</p> <p>■事業の賛同者を増やし、資金面での協力も得る必要がある。</p>	<p>広報の強化を図るとともに、事業のあり方などを検討していく。</p>

事業名	TACT フェスティバル TOKYO	事業開始	平成22年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	演劇
事業のねらい	子供だけでなく、大人が鑑賞しても楽しめるような質が高く独自性がある海外の舞台作品を地方都市と連携して招聘し、子供たちが上質な舞台芸術に触れ理解する機会を提供することで、将来の創造的な舞台芸術を支える層を育てていく。		
内容	<p>子供の感性を涵養する自由な場を創出するために、海外から一流の劇団を招聘し、親子で楽しむことのできる上質の舞台公演、参加型ワークショップなどを水天宮ピットで実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 「ひつじになるという美学」 / 8月2日(火) / 水天宮ピット 「ガムランと影絵」、「みんな集まれ！大道芸チャレンジ広場！」、「ひつじ」、「ガムランと影絵『ビモ・ボトッ〜ビモのおにたいじ』」、「飛行隊」 / 8月3日(水)、4日(木) / 水天宮ピット</p> <p>【参加者数】 723人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>規模縮小の実施にもかかわらず、海外から、ファミリー向けに上質な作品を招聘・上演することができ、コンセプト・内容とも好評を得ることができた。</p> <p>●ファミリー向け企画に合わせ、地元住民向けに説明や広報を重点的に行い、ほぼ全ての公演が満席となった。</p> <p>震災の影響を受けて、集客や事業予算は縮小したが、事業の質を確保して実施できた。</p>	<p>今後の実施にあたっては、芸劇の“地元”の絞り方や広報活動の手法、有料公演への集客などが課題である。</p> <p>■提携館や上演場所を増やすことも検討していく。</p> <p>■舞台公演のほか、ワークショップなども組み合わせ、各地域に応じた内容で構成することが必要である。</p>	<p>有料公演への集客や、劇場、自治体、教育委員会などとの協力体制などの課題について引き続き検討していく。</p>

事業名	青少年のための舞台芸術体験プログラム	事業開始	平成21年度
政策目標	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	ジャンル	演劇 音楽
事業のねらい	舞台芸術を学ぶ学生や関心のある青少年を対象に、国内外の一流のオペラやバレエ、オーケストラ等の公演の稽古やゲネプロなどの公開や参加型のプログラムにより、次世代を担う若者に様々な芸術体験の場を提供し、舞台芸術に対する理解を深める機会とする。		
内容	<p>東京文化会館で実施する国内外のトップレベルの公演の稽古やゲネプロを公開した。あわせて、本番直前の舞台裏の見学や一流の音楽家による公開レッスンなど、参加型のプログラムも実施し、幅広い芸術体験の場を提供した。</p> <p>【開催日及び会場】・メトロポリタン・オペラ「ランメルモールのルチア」公開ゲネプロ / 6月6日(月) / 東京文化会館(以下全て同会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都交響楽団第719回定期公演公開リハーサル / 6月20日(月) ・東京二期会オペラ劇場「トゥーランドット」「ナブッコ」公開ゲネプロ / 7月5日(火)、2月16日(木) ・バイエルン国立歌劇場「ナクソス島のアリアドネ」公開ゲネプロ / 10月4日(火) ・マリエッタ・デヴィーア 声楽公開レッスン / 11月2日(水)、3日(木・祝) ・東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ「古事記」公開稽古、公開ゲネプロ、バックステージツアー / 11月10日(木)、13日(日)、18日(金)、23日(水・祝) ・東京バレエ団「ザ・カブキ」公開ゲネプロ / 12月16日(金) ・都響スペシャル「第九」公開リハーサル / 12月24日(土) ・藤原歌劇団「フィガロの結婚」公開ゲネプロ / 3月2日(金) <p>【参加者数等】 832人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●世界的に著名な指導者による参加型プログラムも低料金で受講でき、参加者には好評を得た。 ●減少傾向にある若い世代の舞台芸術への関心を高め、舞台芸術を専門的に学ぶ方から初心者まで、幅広い層の青少年が満足を得られた。 	<p>参加型プログラムは、広報活動が十分でなく参加者数が伸び悩んだため、プログラムの特質に合わせて、早期から個別的な広報が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■単発的な鑑賞体験などでなく、一連のプログラムを通じて参加者が一定の成果を実感できる事業の組立てを検討する必要がある。 ■若者が有意義な芸術体験を得る機会を継続的に提供する。 	<p>プログラムの特質に合わせた個別的な広報を行うとともに、参加型のプログラムの実施など、長期的に事業を継続・発展できるプログラム展開を行う。</p>

事業名	東京アートポイント計画	事業開始	平成21年度
政策目標	アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開。創造型NPO等と協働し、防災、子育てなど他分野とも連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業		ジャンル
事業のねらい	東京の様々な地域にある人・まち・活動をアートによって結ぶことで東京のさまざまな魅力を創造・発信することを目指す。都内各地に人・まち・活動の接点である「アートポイント」を作り出すことで、人々に新しい発見や創造の契機をもたらす。		
内容	<p>様々な立場のまちの人々や地域を対象とし、アートを入口とし、多様な地域資源を活用するエリア型プログラム、アート以外の分野を入口とし、様々な政策と関わる複合型プログラム、アートポイントの担い手を育成する人材育成プログラムを三つの柱として事業を実施した。さらに、ソーシャルプラットフォームプログラムとメディアプログラムにより、これらの活動を支える基盤整備とメディアを通じた発信を実施した。</p> <p>【実施事業】「エリア型プログラム」／ 墨東まち見世2011、TERATOTERA、TOKYO-FUKUSHIMA!、岸井大輔プロジェクト「東京の条件2011」、ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト、ひののんフィクション2011、小金井アートフル・アクション！S&G、としまアートステーション構想、アートアクセスあだち2011 音まち千住の縁、豊島区在住アトレウス家、三宅島大学、Scramble Crossing of Art「明日の神話」プロジェクト</p> <p>「複合型プログラム」／ 川俣正・東京インプログレスー隅田川からの眺め、アーティスト・イン・児童館、イザ！カエルキャラバン！in 東京、公園プロジェクト</p> <p>「人材育成」／ Tokyo Art Research Lab</p> <p>「ソーシャル・プラットフォーム」／ アートのためのキャリア支援プログラム2、P+ARCHIVE、東京事典</p> <p>【来場者数】 27,166人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>より複合的・多角的な構成で事業を実施し、各プログラムでスタッフやボランティアの人材育成の成果が出ている。</p> <p>●エリア型プロジェクトの実施エリアの拡大により、東京アートポイント計画の存在感が高まった。</p> <p>基礎自治体との連携という新しい手法の確立により、資金の有無を問わず、人・物ともに大きな支援を得て、地域との協働体制により堅固な基盤を築き、事業を実施できた。</p>	<p>各プログラムの事務局のスタッフ増とスタッフのスキルアップによる機能強化が必要である。</p> <p>■共催としての事業終了後も団体が事業を継続できるよう、団体の自主自立化のあり方を協議し、慎重かつ大胆な戦略の組立てを検討する必要がある。</p> <p>■各団体の自主性を尊重しつつ、アートポイント計画全体の意義や必要性、成果など全体像を効果的に可視化させていく必要がある。</p>	<p>プログラム間の連携や、現場と人材育成プログラムが連動した仕組みを検討するとともに、各共催団体の自主自立化に向けた支援を行う。</p>

事業名	FUTURE SKETCH 東京会議	事業開始	平成23年度
政策目標	「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	ジャンル	
事業のねらい	東京の文化の海外への発信と国際ネットワークの構築、文化・芸術の可能性および新しい社会または未来の姿を模索する議論を展開する。今回特に、東日本大震災後も様々な文化・芸術における活動が東京周辺でなされていることをアピールし、合わせて被災地支援のための文化プログラムの展開、また新たな社会形成における文化の役割について理解促進する。		
内容	<p>東日本大震災以降、様々な困難や危険な現実と向き合う中で、文化・芸術の意味と力について考え、新しい社会の在り方や未来について模索する国際会議を実施し、新しい創造社会形成の可能性を議論した。</p> <p>【開催日及び会場】「新しい社会をデザインし、新たなつながりをつくるために」 / 10月28日(金) / 国際交流基金JFICホール 「3.11以後の文化の力」 / 10月29日(土) / 秋葉原コンベンションホール</p> <p>【来場者数等】 来場者:165人 Ustream 視聴者:3,688人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>東京の文化の海外への発信、国際ネットワークの構築、文化・芸術の可能性などを模索する議論を展開し、意義のある会議となった。</p> <p>●各国から多様なパネリストを迎えて新たな社会のあり方と芸術・文化の役割について議論を展開することができ、具体的課題を提起することができた。</p> <p>国際交流基金をパートナーとしたことで、パネリスト選定が成功し、助成金の確保、会場提供、広報など運営面で大きな支援を受けることができた。</p>	<p>今後、ネットワークを確実なものとし持続・発展させるための方策を考える必要がある。</p> <p>■今回の会議で提起された課題やテーマを今後の事業展開に活かし、より幅広い議論を喚起するような継続的な機会の設定と、持続的な国際ネットワークの形成を行っていく。</p> <p>■開催形式を見直し、参加者との意見交換や交流の機会がある充実した内容にする。</p> <p>■東京クリエイティブ・ウィークスの告知期間を十分に設け、事業の周知を徹底する。</p> <p>■国際交流基金との連携のほか、民間企業との協力体制も築いていく。</p>	<p>会議の運営方法や合理的な期間設定を検討し、持続的な国際ネットワークを形成して充実した事業展開を行う。</p>

事業名	国際招聘プログラム	事業開始	平成23年度
政策目標	「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	ジャンル	
事業のねらい	東京の文化の海外への発信と国際ネットワークを構築する。特に、東日本大震災後も様々な文化・芸術活動が東京周辺でなされていることをアピールし、被災地支援のための文化プログラムの展開、新たな社会形成における文化の役割について理解促進する。各事業の視察や関係者との面談を通じて、東京の文化の理解促進を図り、アピールした上で、発信力の強化を図る。		
内容	<p>東京クリエイティブウィークに合わせ、約10日間にわたり、世界各国の感度の高い若手の芸術・文化関係者を東京へ招聘し、東京文化発信プロジェクトの事業等を視察、東京の活発な創造活動に触れるとともに、都立文化施設等を訪問し、東京／日本のアートシーンに詳しい関係者等との意見交換を行った。</p> <p>【開催日及び会場】 参加者プレゼンテーション / 10月23日(日) / 東京文化発信プロジェクト ROOM302 大友良英氏と日比野克彦氏のトークセッション / 10月27日(木) / 国際交流基金JFICホール</p> <p>【来場者数等】 招聘者:13人 交流者数:約100人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>東京に集積している文化資源を十分に活かした事業であり、被招聘者との関係形成を通じて、欧州・アジア・米国などへ東京の文化を発信し、国際ネットワークを構築する足掛かりができた。</p> <p>●被招聘者の東京の文化・芸術への関心が深まり、記事掲載や作品招聘の検討などの短期的な成果に加え、今後の招聘候補の提案や相互ネットワーク拡大などにつなげることができた。</p> <p>東京の芸術・文化に対する関心が高まることにより、参加者が今後の事業展開を検討することにつながった。</p>	<p>今後、参加者とのネットワークを持続的なものとして発展させるための方策を考える必要がある。</p> <p>■国際的なネットワーク構築のために多様な芸術文化関係者を招聘し、海外発信の強化をPRし、徐々に実施回数を増やししながら、本プログラムの存在感を示していく。</p> <p>■交流・討議の時間を十分に設け、コーディネーターの体制をより充実させる必要がある。</p> <p>■アート関係者に情報を伝達し、交流機会を多く設けるようにしていく。</p>	<p>参加者とのネットワークを持続的なものとして発展させるための仕組みを作っていく。</p>